

告辞

東京農工大学を卒業される皆さん、また本学大学院の課程を修了される皆さん、誠におめでとうございます。本学教職員を代表し、心よりお祝いを申し上げます。本学で過ごした数年間において、皆さんは勉学や研究に大いに励んだことと思いますが、そのほかにも楽しいことや辛いこと、さまざまな経験をしてきたと思います。皆さんのキャンパスライフは、今となっては楽しい思い出になるようなことが沢山あったことでしょう。研究生活では想定外の失敗や、挫折も多々あったことでしょう。失敗を繰り返し、最後に上手く行ったときの喜びや達成感は本人にしか分からないでしょう。皆さんはさまざまな経験をし、困難を乗り越えて逞しく成長してきたと思います。これからは、本学を離れ、夢を実現させるために実社会に打って出る人もいるでしょう。また、さらに高い目標に向かって、いち早く次のステップに上がる人もいるでしょう。本日、ここに参列している皆さんの輝く瞳を見ていると、皆さんの未来は明るいなど強く思います。

本日の良き日を迎えることができたことは皆さんのたゆまない努力の賜物です。しかし、これまでやってこられたのは、皆さんだけの力ではありません。皆さんが学業に励んできた間、常に皆さんを優しく見守り、支援してくれたご家族、友人その他多くの方々の支援があったことと思います。皆さんの周りの応援団に感謝することを忘れないでください。

本日は、学士号取得者が農学部 2 名、工学部 3 名、修士号取得者が工学府博士前期課程 2 名、農学府修士課程 18 名、生物システム応用科学府博士前期課程 3 名、博士号取得者が工学府博士後期課程 16 名、生物システム応用科学府博士後期課程 5 名、連合農学研究科博士課程 17 名、論文博士 1 名、計 67 名が本学から巣立って行きます。これから皆さんが進む道は様々です。一段上の課程に進み、さらに専門性の高い研究にチャレンジする人もいるでしょう。実社会に出る人もたくさんいるでしょう。学生と言う殻を脱ぎ捨て、社会人となる皆さんには、今までの学生生活とは大きく異なる新しい世界が待っています。これまで習得した様々な知識・経験を存分に発揮し、東京農工大学を卒業・修了したプライドを持って堂々と社会で活躍して下さい。ほとんどの知識はいつでも・どこでも手に入るようになりました。重要なのはゼロから 1 を生み出す創造力です。本日の修了者の過半数は博士の学位を取得されました。学位論文をまとめるために皆さんは狭い領域だけを専門に掘り下げていただけではないでしょう。研究の進め方は勿論のこと、コミュニケーションツールや分析力、協調性、など多くのことを身につけたと思います。博士学位は自分で研究全般をマネージでき、ゼロから 1 を生み出す創造力を持っていることを意味します。自信をもって思いっきり活躍して下さい。既に本学を巣立った多くの先輩たちも様々な方面で元気に活躍しています。

これから社会に出る皆さんは、世の中はやれば必ずうまく行くと言うものではない、むしろ失敗する割合の方が大きいことを既に知っているでしょう。だからと言って、新し

いことにチャレンジするときに、必ずうまく行くことを選択しないで下さい。皆さんは「失敗を重ねた先に成功が待っている」ことを知っています。見方を変えると、失敗は貴重な成果なのです。具体的な目標に向かって挑戦し、達成できない場合でも、挑戦した結果は残ります。研究生活ではこの失敗の記録が重要な成果になることは決して少なくはありません。我々人類が予想できる結果は大したことはありません。そのレベルの予想から外れたものが、実は大きな意味を持っているかもしれません。いずれにせよ、行動した結果得られたものは本来の目的が達成されなくても大切です。やらないことと、失敗したこととの間には大きな違いがあります。失敗しても立ち上がり、再度チャレンジする強い心「レジリエンス」を忘れずに、失敗を楽しむくらいの気概でチャレンジしてください。

学士や修士課程を修了し、社会人となる皆さんは、是非博士学位を取りに戻って来て下さい。現代社会では一次の情報はいとも簡単に手に入りますが、創造する力は人間にしかないものです。新しいものやことを創造できるような能力を身につけ、リーダーとなって世界を動かしたいと思ったら、是非博士学位を取得しに、再び本学に来て下さい。本学の博士課程は様々な特徴を持ったコースがあります。我々は皆さんを暖かく迎えるでしょう。社会に出るまでは何が要求されているのか分からないことが多いのですが、出てから自分に足りないものを知って、学びなおしを決意しても遅くはありません。人生は長いのです。分かっているながら惰性で日々を過ごすよりも、一大決心をして本学の博士課程で自らをさらに磨き上げる選択をして下さい。そして、これからの社会をけん引するリーダーになって思う存分活躍して下さい。

本学も皆さんの母校として誇れるよう、またいつでも皆さんのお手伝いが最高の形で出来るよう、教育体制の充実は勿論のこと、様々な取り組みを推進させ、社会の役に立ち、世界に認知される実力ある大学を目指して一層の努力をしてまいります。

これからも同窓会活動やそれぞれの仕事を通して皆さんと私たちの互いの交流が有意義に深まることを願っております。最後にもう一度皆さんの卒業・修了を祝い、今後益々の健闘・活躍を心から願って、告辞と致します。

令和元年9月18日

東京農工大学長 大野 弘幸